

中国現代国際関係研究院（CICIR）創設 30 周年記念

第 21 回 AFJ – CICIR 日中シンポジウム
菅政権の誕生と今後の日中関係

<2010 年 7 月 14 日 中国現代国際関係研究院>

オープニング：CICIR 副院長・AFJ 理事長挨拶

中国側：季志業（CICIR 副院長）

日本側：吉原欽一（AFJ 理事長）

第 1 セッション：参議院選挙の結果分析と今後の日本政治

司 会：中村克彦（AFJ 常務理事）

日本側：三浦博史（アスク代表取締役）

中国側：馬俊威（CICIR 日本研究所副所長）

第 2 セッション：日中経済状況

司 会：胡繼平（CICIR 日本研究所所長）

中国側：江涌（CICIR 経済安全研究センター主任）

日本側：新開伊知郎（AFJ 主席研究員）

吉原大司（AFJ 主席研究員）

第 3 セッション：日中を取り巻く外交・安全保障環境

司 会：堀圭一（AFJ 研究員）

中国側：霍建崗（CICIR 日本研究所副研究員）

日本側：清貞智会（AFJ 客員研究員、SRI インターナショナル・シニアアナリスト）

総 括

日本側：吉原欽一（AFJ 理事長）

中国側：季志業（CICIR 副院長）

記念レセプション

シンポジウムの参加者と概要

■参加者

【CICIR】

- ・ 崔立如（院長）
- ・ 季志業（副院長）
- ・ 胡繼平（日本研究所所長）
- ・ 馬俊威（日本研究所副所長）
- ・ 江 涌（経済安全保障研究センター主任）
- ・ 劉軍紅（グローバリゼーション研究センター主任）
- ・ 霍建剛（日本研究所副研究員）
- ・ 徐学群（日本研究所副研究員）
- ・ 孫建紅（日本研究所助理研究員）ほか



崔院長（右）と吉原理事長（記念レセプション）



【AFJ】

- ・ 吉原欽一（理事長）
- ・ 中村克彦（常務理事）
- ・ 新開伊知郎（主席研究員）
- ・ 吉原大司（主席研究員）
- ・ 堀圭一（研究員）
- ・ 三浦博史（株式会社アスク代表）
- ・ 清貞智会（AFJ 客員研究員、SRI インターナショナル・シニアアナリスト）

■概 要

オープニング：CICIR 副院長・AFJ 理事長挨拶

季志業副院長は、CICIR30年の歴史のなかで、20年以上にわたり学術・政策交流を継続している機関はAFJのみであると述べ、AFJとの関係がCICIRにとって特別なものであると指摘しました。吉原理事長は現在、日本が直面している構造的な変化が日米中関係におよぼす影響に言及し、これまで両機関が取



季志業副院長



吉原欽一理事長

り組んできた「経済協力会議」、「日中戦略対話」に続く新たな対話枠組み設置の必要性を指摘しました。これに対して季副院長は、アジアにおいて最も重要な中国と日本の関係強化に向けて、CICIRとAFJがより重要な役割を担うべきであり、そのための新たな対話枠組みの設置は不可欠だと賛意を示しました。

第1セッション：参議院選挙の結果分析と今後の日本政治

三浦博史氏は、シンポジウム直前に行われた参議院選挙と日本政治の行方について、専門家ならではの視点から分析・解説し、CICIR側参加者からは多くの質問が寄せられました。馬俊威副所長は、中国から見た日本政治の問題点を指摘し、小泉政権後の日本の政権が安定しないことが、日中協力関係の進展にも影を落としているとの懸念を示しました。



三浦博史氏



中村克彦常務理事



馬俊威副所長

第2セッション：日中経済状況

江涌主任は様々なデータを用いて現在の中国の経済情勢について解説し、消費大国となりつつある中国が今後も成長を維持するための課題について報告しました。これを受けて新開主席研究員は、中国社会の安定に向けた日中経済協力の可能性について、具体的提言を含む報告を行いました。また吉原主席研究員は、菅政権の経済政策の方向性について報告するとともに、日中経済関係強化のために中国側のさらなる規制緩和が必要だと指摘しました。



江涌主任



新開伊知郎主席研究員



胡継平日本研究所所長



吉原大司主席研究員

第3セッション：日中を取り巻く外交・安全保障環境

霍建剛副研究員は、小異を残して大同につくという中国の歴史的な智慧をもとに、日中間の協力分野を模索する必要があると指摘しました。清貞客員研究員は、日米中三カ国に共通する安全保障上の課題としてマラッカ海峡における海の安全保障を挙げ、アメリカが提唱するGlobal Maritime Partnership(GMP)等の取り組みへの中国の参加を提案しました。



清貞智会客員研究員



堀圭一研究員



霍建崗副研究員